

刊夕 日九十月三



定価一冊五錢... 電話六二〇〇... 印刷所 常盤毎日印刷株式會社

玉川鑛毒問題 聲明書(二)

玉川村長 野崎滿藏

六、藤原川本流と入山炭鑛の排水の流下する湯川の合流点から萬年堰迄の中間に於ては湯本町及び磐崎村は全然灌溉をして居らぬものでありますから被害も従つて蒙る様な事はありませぬ。

七、藤原川は炭鑛の排水によつて従來は赤褐色でありましたが最近河原全部が黒褐色と變じて來ましたので、村民は非常に憂慮と恐威とを感じて居るのであります。

八、炭鑛では科學上鑛毒皆無だと主張して居りますが、事實稲作は年々減收を重ね、畦畔に植付けた大豆が一粒の結實も致さない結果を見て居る農民としては鑛毒皆無だとは如何にしても肯定出來得ないのであります。

九、玉川村民は係争を目的とするのではありませぬ累年の鑛毒に依る農作物の減收の顯著なる事實と農家の益々疲勞困憊する状況とを見ては何んにしても黙視する事は出來ませぬ、鑛業も國家の大切な事業でありますれば農業も亦國家の大本と申すべき尊い事業であります。

あります、故に本村は唯農作物に對し鑛毒を除去する方法と設備とを研究せねばならないのであります。

十、今や農家は苗代播種期を目前に控へて、魚類が斃死する様な鑛毒が引續いて苗代等に及ぼすとすればそれこそ安堵して居る譯には行きませぬ、彼の五、一五事件に於ける少壯士官は農民の疲弊、農村の廢頹を慨し至情を以て立つたのであります、私は生を玉川村に享け今回計らずも玉川村長として迎へられた以上微力乍ら全生命を玉川村に捧げる事は元より覺悟をして居るのであります、今回の鑛毒問題は單に玉川村のみの問題でなく眞に農村を救ふべき重大な社會問題と考へて居りますので此の際大方各位の切なる御同情に訴ふるものであります。

(終)

いかのぼり

(三)

電線に吊られて泣くや奴風
飛行機の遠くを過ぎて風揚る
空一面繪風字風や春の風
山風のすさる風をおろしけり
とり／＼のたこに賑ふ村端れ
下駄も切れたこも破れて歸りけり
大風は飛行機暫し漂ひり
手ぐるほど糸のもつれていかのぼり

耕影 紅果 鐘樓 何鳴 鐘亭 良亭 曉美

遠き星

木津茂太郎

星のひかりの遠さよ—
つめたく見えたが、やさしくも見えた
夜空にほのぼのと昇るけむりは
星を包みさうなんだが、中々つゝめないのだ
或る夜星は流れた!
それは直ぐ頭上を來たが何處へ行つたか判らなくなつて了つた

みどりに色に光る星は美しいですなあ
きら／＼きら／＼哀しさうに輝やくのだ
だが盲目になるとあの星も見えなくなるのだ
今の私は見れば見えるのだが

生徒募集

- 本科一年 ○ 師範科
 - 専攻科 ○ 師範科
 - 本科二年 ○ 裁縫専修科二年編入
- 文部大臣 藤田女學校
認可
○ 願書受付 三月末日限り
○ 詳細 本校宛問合せの事
○ 位置 福島縣平町町 電話三二八番

高久病院

- 院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
平町町 電話五二三番
- 内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお願ひ致します

平町町六九
喜多流 謠曲 仕舞 白土會
電話一二七番

學校卒業賞品特賣

各學年卒業修業期が近づきました。各種賞品類も全部荷揃致しました御仕入の絶好期、卸賣特に御務め勉強致します。

共榮漆器店

景品賞品類 進物贈答品 恩賜賞與品 記念表彰品 各國産漆器
平町三丁目北裏通り
本年尋卒 仕着 小使月二圓
同高小卒 仕着 小使月三圓
外交員十八九才より三十才迄

入學記念時計賣出し

お目出度い御入學御進學が近づきました。御祝に是非正確な時計及眼鏡を御求め下さい。學生様にかぎり拾ヶ年保険付

特 價 金七圓ヨリ
近眼鏡(玉入) 金壹圓五十錢ヨリ
右三サーピスは 三月十五日ヨリ 四月十五日マデ
(小店員數名募集)

金光堂時計店

電話一九五

磐城共濟病院

電話 六四一番

- | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|
| 内 科 | 小兒科 | 産 科 | 婦 科 | 外 科 | 皮膚性病科 | 耳鼻咽喉科 | X線科 | 物理療法科 | 藥 局 | 衛生試驗所 |
| 院長 | 醫學士 | 醫學士 | 醫學士 | 醫學士 | 醫學士 | 醫學士 | 醫學士 | 醫學士 | 藥劑師 | 獸醫 |
| 石山 謙 | 石山 謙 | 石山 謙 | 石山 謙 | 石山 謙 | 石山 謙 | 石山 謙 | 石山 謙 | 石山 謙 | 高本 孝平 | 鈴木 寶雄 |

ゼブラの自轉車 代理店

エビスや自轉車店

平南町 電話六六四番
宮田自轉車九半度郵便局納の五千二百輛

耳鼻咽喉科専門

鈴木醫院

醫學士 鈴木 正男
平町町(電話五八番)
藤田女學校前
自炊のお需めに應ず
入院の便あり

五百万年前との

折紙付魚の化石

本社の手を通じて第一校へ

▽柳下元吉氏から寄贈

平町紺屋町元町議柳下元吉氏の實兄柳下梅吉氏は數年前新天地滿洲に雄飛すべく渡滿

熱河省に於て請負業を営み今や同地實業界の立役者となつて認めらるゝ成功を見るに至つたが同氏は最近同地から發掘した古代の魚化石を手に入れたので此程實兄元吉氏に送付してきたが元吉氏は珍らしき化石を個人の秘藏に歸するに忍びずとして本社の手を経て平第一小學校に理科學

参考資料として寄贈したか更に本社はこの化石の一切を明かにすべく地質學に造詣深き磐女教諭山口彌一郎氏方に鑑定方を請ふた處同氏の鑑定に依れば

馬資金收支豫算は二千四百三十三圓であるが組合經費その他財産の預入銀行は福島縣農工銀行平支店に指定

一、産地、滿洲國熱河省凌源縣五家店

一、魚の名稱、不明

一、時代、侏羅期

一、年代、約五百万年前

といふ真に得難き逸品であり且つ別項山口氏の談の如く學術上重要な資料であること判明した

學術上重要な逸品

鑑定山口教諭語る

一面に魚の浮彫模様

(右に就き山口教諭は語る) 滿洲國熱河省北票朝陽より凌源に亘り廣大な地域に大淡水湖ありそれが侏羅期以後の地層變動のため隆起して陸地になり湖水に住んでゐた魚が化石になつたものである、昭和八年八月徳永博士を團長とする滿濛學術調査團が熱河を踏査された時

産馬豫算

總會を開く

石城郡産馬畜産組合總會は十九日午前十時から平町團体事務所樓上に於て開き左記議案を付議したが昭和九年度同組合豫算は歳出入各々四千九百八十三圓で、種

清水博士等の發見した魚の化石と同一のも

婦徳を磨けと

磐女卒業式に知事の餞け

既報磐城高等女學校第二十二回卒業式は昨十八日午前十時より同校講堂に知事代理健康保険課長岡本喜三郎氏臨席、來賓として青沼町長外保護者百餘名が参列、正木校長の告辭あつて左記知事の告辭に次ぎ、青沼町長、小楡山磐中校長の祝辭、在學生總代三年生高木幸子の送辭等に對し卒業生總代山本マサ子の答辭があつた

内において國民的自覺愈々強からんとし外にありては國威の顯揚著しきものありと雖帝國の現狀は内治外交共に多事にして舉國一致國民の奮勵努力を要するや切なり抑々家庭に於ける生活の淨化經濟の改善教育の振興社會に於ける風教の樹立産業の開發文化の向上等は國家發展の根源にして然も婦人の自覺と努力とに俟つ所頗る大なり諸子に既に我が國婦人としての高等普通教育を了へたり是を以て國家が諸子に期待する所誠に重大なるものありされば出て社會の實務に就し者も進んで上級の學校に學ばんとする者も入りて家庭にある者も浮華輕飛に流れず保守退嬰に墮せず誠實進取婦徳の鍊磨知能の啓發を怠らず常に時代の進歩と共に進み理に偏せず情に走らず本邦婦人としての美徳良能の完成に努め以て本校卒業生としての眞價を發揚するの覺悟あるを要す希くは諸子宜しく婦人の眞使命を自覺して一層身體を強健にし知徳を磨き以て家庭の幸福國家の繁榮のために貢獻せられんことを、一言素懷を述べて告辭とす

すること内定してゐる

- 一、昭和九年度石城郡産馬畜産組合經費收支豫算
- 二、昭和九年度産馬資金收支豫算
- 三、縣有種牡馬借受ノ件
- 四、組合經費並種馬資金及基本財産共済基金預入銀行指定ノ件
- 五、運用金償還繰延ノ件
- 六、區長選舉ノ件
- 七、評議員選舉ノ件

(報告)昭和七年度事業報告、外三件

佑賢卒業生

二十四日に擧式

磐城佑賢學舎第二十一回卒業證書授與式は来る二十四日午前九時より行はれるが卒業生は左記三十名である

泉勳 鶴沼忠昌 十宅通 小山定二郎 小川忠平 木田勝義 木下與四郎

四倉セメント表彰

鎮守祭當日に祝賀會

四倉町磐城セメント株式會社四倉工業所では昨日福島に於て開かれた本縣工場協會評議員會の決議に依つて四月初旬郡山日東紡績と共に福島縣下に於ける優良工場として最初の表彰を受けたことにちなつたので四月二十九日天長節の佳辰に行はれる同工場鎮守祭を卜として盛大なる祝賀式を催すべく早くも準備に餘念がない

福電優勝

三人制卓球

マルトモ運動具店主催第三回縣下三人制卓球大會は昨日午前九時から平第三小學校に於て開かれたが参加九組接戦の結果準決勝に於て平卓球と福電の各A、B兩組が對戦し結局A組勝残りB組優勝す、準決勝の

菅野忠康 川澄原金 倉健次郎 佐藤定吉 齊藤寅市 鈴木重芳 鈴木介三郎 鈴木作雄 鈴木博 菅波英夫 須藤貞隆 高木忠平 新妻新雄 新妻孝之 松本三郎 山内孝雄 吉田淺治 吉田良雄 渡邊克己 猪狩清 岡田勝

戰績左の如し

△準決勝

福電B 2—3 平卓球A

平卓球B 0—3 福電A

△決勝

福電A 3—1 平卓球A

小學基金寄附 平町大町織田寅松氏は此程小學校基本金として五十圓の寄附を平町役場に申出た

卓球役員

昨日改選さる

平卓球協會では十八日午後六時半からマルトモホールに於て幹部會を開き役員改選を行つた結果左の如く決定した

△顧問 唯野喜八 小楡山久作 齊藤陸郎 △會長 丹野英治 △副會長 新家芳美 △會計 熊谷保高 加澤勺 △幹事 庶務 吉田功 目黒安治 △幹事 渡邊三郎 外二十一名

洗禮教會

大講演會

江谷牧師來平

平町材木町バプテスト教會では二十一日午後七時半から春季大講演會を開くが講師は東京市杉並區バプテスト教會江谷林藏氏であると

平町人喜

回婚 姻

△八幡小路二九 永島タキさん(二六)金貴鶴氏(三七)

井上氏公判

中島裁判長辭退

東京から磯部尙辯護士

來月六日に

既報目下保釋中である井上茂作氏外色川勝三郎、佐藤三平兩氏の破産法違反事件の第一回公判は來月六日午前九時より平區裁判所法廷に開かれる事になったが中島裁判長は事件審理の辭退を申出た爲め福島地方裁判所判事金貞次郎氏が裁判長として開廷され千葉、大嶺安齋、松野尾の各辯護士及び東京から磯部尙辯護士が列席無罪論を唱へる事になつて居るので成行注目さる

鬼越山林

五段歩焼く

十八日午前十一時半頃内郷村大字御臺境字鬼越地内民有林から發火したので同村並に隣村好間消防組が直ちに出勤して消火に努めたが折柄の強風に火は忽ち擴がり約五段を焼いて午後零時半鎮火した原因目下平署で取調べ中

賭場の手入りに

大谷刑事負傷す

一座の者と大格闘

一名も洩らさず檢舉

小名濱町字沖見町機械職工瀧澤壽郎(一)方で十七日午後九時頃丁半賭博開張してゐるのを探知し數名の平署員が現場に踏み込んで大格闘の末左記七名を逮捕した其の際大谷刑事は足部に全治一週間の傷を負ふた

自動車總會

諸議案協議

平署管内自動車業組合臨時總會は既報の如く十八日午後一時から平署會議室に於て開いたが出席會員四十餘名、左記議案を付議可決し午後四時散會した、尙ほ露

油共同購入の一年度分五千ガロンは保證金を積んで購入に決した

(協議事項)露油共同購入に關する件、昭和九年度豫算審議に關する件(報告)昭和七年度協會費決算(協會への提出事項)運轉事故死亡の場合の弔慰の件、車體検査所を平町に設置の件外一項

草野入學注意 草野村小學校の本年度入學生徒數は四百十名に達するが受

嫁ぐ間もなく

他に愛の巢を

桃色事件の訴訟沙汰

春風の訪れと共に嚴めしい平區裁判所内にも桃色事件が賑ひ出した一雙葉郡熊町村大字熊字羽山嶽三九菅沼ヒメヨ(三)さんは同郡大野村大字大川子菅浪定七(三)を相手取り離婚請求の訴へ

を同裁判所に提起したが男は昭和五年四月中ヒメヨと婚姻し僅か數ヶ月で無断家を出した揚句同村渡邊ヌイ方に同居して居りヒメヨが再三歸宅方を迫つたが應せぬといふにある

インチキ電球に

御用心願ひます

購入者が損失を招く

マツダ ランプ 特約者が憤慨

最近メートル制電燈の需要家が増加すると共に電球の行商人が右の需要家其他を戸別に訪問して電球を安價に賣り付け廻つて居るが需

要家が實際に使用して見ると一ヶ月位で断線消燈到底使用に堪へなく、右はマツダランプの断線した電球にインチキな修理を施した

明日のラヂオ

今晩も明日も北西風の晴

田川大吉郎 田川花の旅

菊原 琴治 菊原 琴治

浪花節 殿中 双傷

桃雲閣呑風 後八、〇〇

長唄新曲「浦島」 秋田川反藝妓連中

後九、三〇 時報 ニュー

今晩の部

後六、〇〇 (子供の時間) お話名畫春「古家新

後六、二五 英語講座 萩原 恭平

後七、三〇 講演「三國會議を中心として」

氣象通報 番組豫告

明日の部

前七、〇〇 基礎獨語講座 (三十)

前八、〇〇 佛敎講座「隨喜稱名成佛三昧儀」(第三講) 駒澤大學長文

前九、〇〇 料理献立「魚の潮煮、里芋の抽子みそかけ」

前九、三〇 家庭講座「注意して欲しい日常の生活」 本間 清人

前一〇、〇〇 彼岸會法要

ラヂオの仙臺放

無料診査 送局では三月二十七、八の兩日平町大工町東部電力平營業所樓上にラヂオ器無料相談所を開設する

本登り男の死因

疑問で屍体解剖

地上に降りて間もなく絶命

諸橋博士が執力

飯野村大字北白土農加藤清作(五)は十八日午前九時頃同字村山英雄外數名と同村上荒川地内山林に薪木伐採に行き高さ六尺の樹上で仕事突然氣分が悪くなつた

と地上に降りる間もなく絶命したので大騒ぎとなり平署員が出張検視したが外部よりの打撲痕傷の跡もなく脳溢血か心臓麻痺らしいと云はれてゐるが平署ではこの謎の死因を明らかにすべ

江名卿筒購入

江名消防組では今回自動車ポンプを設置することになりこれに購入のため同組頭加澤一造氏、副組頭田善之助氏外小頭二名が十八日東京

藤倉氏岳父逝去 平町大町平商友會商議員藤倉武雄

平職業紹介所報告

回人を求める方

△女中 二十才位 尋卒

△店員 初給五圓

△商店雜役 二十才—三十才 尋卒

△配達夫 十七—四十才 尋卒 月十圓—二十圓

△商店雜役 十七—二十才 尋卒

△女中 二十才位 尋卒

△店員 初給五圓

△商店雜役 二十才—三十才 尋卒

△配達夫 十七—四十才 尋卒 月十圓—二十圓

△商店雜役 十七—二十才 尋卒

△女中 二十才位 尋卒

△店員 初給五圓

△商店雜役 二十才—三十才 尋卒

△配達夫 十七—四十才 尋卒 月十圓—二十圓

△商店雜役 十七—二十才 尋卒

藤倉氏岳父逝去

平町大町平商友會商議員藤倉武雄



【禁無斷轉載上演當書】

寶井馬琴演
山本英春畫
第八十四回 徳川家に崇る村正

此の上は神の力

五「白痴奴、何だその態はどれ程腕前上達したかと思ひきや、呆れ返つた末熟者だ、殊に稽古を受けて打たれるに残念だとは何事だ何故参つたと言はん、コレ横澤、白旗、本多、貴公達はなにか由松に稽古を付けて打たれたら残念と言へと教えなされたか」
横「イエとんでもないことで参つたと申すやう教へてくれます」
五「以來もあることだ残念などと言はぬやう能く教へてやんなさい」
横「畏りました、由松貴様が悪い、何で残念などと言つたのだ、今迄そんなことを言つた事がないではないか」
由「どうも相済みません、一生懸命になつて先生を打込まふと思つて居りました處を負けましたから、ツイ残念と申して終ひました」
横「マア言つて終つたことは仕方がない、今後はそんな事を言つてはならん」
由「申譯がございませぬ」
五太夫はその儘奥へ入つて終ふ、由松心中にア、口惜しい、敵のために打た



するより他に道はない、上澁谷の八幡宮は靈驗著かであるを聞くから、これより毎晩お詣りをして祈願をこめよう」
と夜の四ツ半頃になるとソツと道場を脱け出して程近い上澁谷の八幡宮へ参詣して、それから毎夜雨風を厭はず参詣する、他の者は氣が注かなかつたが油断のない水上五太夫、早くもそれと心注ぎ、これは愈々捨て置けない、日頃より怪しい小僧と思つてゐたが、先夜月見の宴の折拙者を恐れず、我意を通そうと致し尙庭の隅の飛石に一人額づ

何としてやらうかと暫く考へてゐたが、やがて白旗丈助を招いて
五「白旗、貴公に改めて頼みたいことがあるが聞いて呉れようか」
白「改まつての頼み、何でございませぬ、先生の仰言り付けならこれまで何事に依らず背いたことはないつもりでございませぬが」
五「他でもないが人を一人亡き者にしてもらいたいのだが」
白「エ、ツ、亡き者にするといふのは殺しますので」
五「先づそうだな」
白「一体それは何者でございませぬ」
五「耳を貸しなさい」
白「ハッ」
白旗の耳へ口を寄せて五太夫が囁くと白旗眼を丸くして

て、何か獨言を申して居つた、彼の拙者が手に掛けた下駄屋の女房には一人の小伴があつた筈、或は彼の由松であるかも知れぬ、何としても氣に入らぬ奴、左様な者を道場へ置くは剣を抱いて寝る様、のだ、ハテ

と、考へてゐるのではないか」
白「先生、そう變にとられでは困ります、由松奴が先生に手向ひする様な場合がありませぬ、手前捨て置く氣遣ひはございませぬがたかの知れた由松奴が何で先生に……」
五「いやさうでない、狙はれる者に隙はあつても、狙ふものに油断はないと言ふ諺がある、彼は少しも拙者に隙があれば、首を取らうとしてゐる奴だ」
白「又如何して先生そんなことをお考へになつたので……」
五「それでは話すが……」
と五太夫が由松は下駄屋の伴で云々と物語り
五「白旗物は相談だが尊公がこれを引受けて呉れれば十兩遣はそう」

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
(申込次第規則書進呈)

小役員數名募集
年齢十五才ヨリ
優遇
御希望ノ方ハ午後一時ヨリ本人御來談下サイ
平町田町一七
レストランサロン
電話三五二番

美しい花の種子
西村屋藥局種子部
平2電3
毎度御好評をいただきて居ます
横濱植木會社の輸出向特撰種子です「草花種子の蒔き方」差上ります
牛久陽弘
電話三八七番

吉田眼科病院
院長 吉田 安雄
平瀬屋町 電話六八八番
眼科専門 醫學士 吉田 久雄

有給外務員招聘
相當學力あり年齢二十才以上の者
經驗の有無を問はず眞面目な奮闘の士を求む
固定給を給與す 委細面談
片倉生命保險株式會社
平町鍛冶町代理店
牛久陽弘
電話三八七番